

学部等名	バイオ・情報メディア研究科 コンピュータサイエンス専攻
------	-----------------------------

1. 教育目的・使命の明確化

学部等がどのような人材を育てたいのか、その方向性が明確かどうかを確認します。

1-1. 当該学部等の教育理念・目的が大学全体の方針と整合しているか記載してください。
バイオ・情報メディア研究科コンピュータサイエンス専攻は、持続可能な社会の構築に貢献する科学技術等の発展を先導するとともに、国際的な教養と豊かな人間性、高い倫理性、創造性と高度な専門能力、高度なコミュニケーション能力、論理的な思考力、分析・評価能力、問題解決力を兼ね備えた人材を育成している。

1-2. 社会的ニーズや地域との関係性を踏まえた教育の方向性を記載してください。
バイオ・情報メディア研究科コンピュータサイエンス専攻では、情報通信技術が社会のあらゆる分野で果たす役割を踏まえ、環境にやさしく、安全・安心で持続可能な社会の構築に貢献する教育・研究を推進している。理論から応用まで幅広い実学教育を行い、最先端の研究を展開している。地域企業や自治体との連携を強化し、実社会の課題解決に直結する教育・研究を進めるとともに、AI、データサイエンス、サイバーセキュリティなど急速に変化する社会的ニーズに対応した専門教育を提供している。また、地域の DX 推進や公開講座を通じて人材育成に貢献し、海外大学との交流や英語による専門教育を通じて国際的な視野を持つ人材を育成している。

1-3. 教育目標が学生や教職員に周知されているか記載してください。
バイオ・情報メディア研究科コンピュータサイエンス専攻の3つのポリシーについては、東京工科大学 HP や学生便覧を通じて、受験希望者、学生、教職員に周知している。

自己評価	
ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した イ. 前年どおりである又は特に問題はない ウ. 改善・修正が必要な点がある。	イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

2. 内部質保証体制の整備

3つのポリシーを起点とする教育の質を自ら点検・改善する仕組みがあるかを確認します。

2-1. 学部内における質保証の組織体制（委員会、責任者など）を記載してください。

バイオ・情報メディア研究科では、全授業科目の授業アンケートを実施し、取りまとめられた結果は、研究科長、専攻長で確認を行い、改善につなげている。また、大学院博士前期課程を修了する学生に対して、大学院独自にアンケートを行っている。結果については、研究科委員会で報告し、改善につなげている。

2-2. 内部質保証のための自己点検・評価の実施状況とその結果の共有について記載してください。

上記 2-1 に記載のとおり、授業アンケート結果並びに大学院修了生アンケート結果を確認し、改善につなげている。また、大学全体で行われる自己点検・評価委員会において、大学院も対象となっていることから、こちらでも自己点検・評価を行っている。

2-3. IR (Institutional Research) によるデータ収集・分析の活用を記載してください。

大学院独自では、IR 活動を実施していない。

2-4. 学生・学外関係者の意見・要望をくみ上げる仕組みと分析結果を教育研究の向上に生かす努力について記載してください。

バイオ・情報メディア研究科では、授業アンケート結果並びに大学院修了生アンケート結果を確認し、改善につなげている。

自己評価

- ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した
- イ. 前年どおりである又は特に問題はない
- ウ. 改善・修正が必要な点がある。

ウ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

大学院独自の IR 活動について検討する。

3. 教育課程の編成・実施

学生が体系的に学べるように教育課程が設計・運用されているかを確認します。

3-1. 3つのポリシーの策定状況と周知方法について記載してください。

バイオ・情報メディア研究科コンピュータサイエンス専攻の3つのポリシーについては、東京工科大学 HP や学生便覧を通じて、受験希望者、学生、教職員に周知している。

3-2. カリキュラム・ポリシー（CP）に沿った体系的な教育課程を編成し、実施しているか記載してください。

バイオ・情報メディア研究科コンピュータサイエンス専攻では、最先端の情報通信技術に関する幅広い専門知識を修得させるとともに、分野横断的な学修を重視したカリキュラムを編成・実施している。博士前期課程では、専門知識の基盤に加え、21 世紀社会で求められる汎用的能力を育成するジェネリックスキル科目を開講している。カリキュラムは毎年見直しを行い、カリキュラム・ポリシーに基づき学修到達目標を明確化し、基礎から応用、研究へと段階的に学べる体系的な教育課程を構築している。学修成果はシラバスで明示し、修士論文（大学院）では複数教員による審査会で発表内容と成果報告書を総合評価するなど、定期的な評価と改善により PDCA サイクルを確立している。また、産学連携科目や英語による専門科目を配置し、実践力と国際的視野を兼ね備えた人材育成を推進している。

3-3. ディプロマ・ポリシー（DP）を踏まえた単位認定基準、進級基準などの学修成果の評価方法を適切に定め、周知し、厳格に適用しているか記載してください。

バイオ・情報メディア研究科コンピュータサイエンス専攻では、ディプロマ・ポリシーを定め、学生便覧などで周知している。修士論文、博士論文の審査においては、学位論文に係る評価に当たっての基準に定めた、論文審査体制、審査の方法、審査基準・水準に基づいて厳正に実施している。

3-4. 教授方法の工夫（アクティブラーニングなど）と効果的な実施について記載してください。

大学全体として、アクティブラーニング、PBL（課題解決型学習）、グループワークを取り入れた授業の実施を推進しており、大学院の教育でも実施している。また、バイオ・情報メディア研究科では、専門科目の他に、専門的な知識の土台となる汎用的な能力の修得に向けたジェネリックスキル科目を開講している。

3-5. 3つのポリシーを踏まえた学修成果の把握と評価方法について記載してください。

大学院博士前期課程では、1 年前期から修士論文の作成に向けた科目を配置し、専攻ごとに発表会の機会を設け進捗状況を確認している。また、博士後期課程においては単位制の授業はないが、毎年 1 回発表会の機会を設け、博士論文の作成に向けた進捗状況の確認を行っている。

修士論文、博士論文の審査においては、学位論文に係る評価に当たっての基準に定めた、論文審査体制、審査の方法、審査基準・水準に基づいて厳正に実施している。

自己評価	
ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した イ. 前年どおりである又は特に問題はない ウ. 改善・修正が必要な点がある。	イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

4. 教員の体制と能力開発

教員が教育・研究の質を高めるための体制と取り組みがあるかを確認します。

4-1. 教員の採用・昇格基準の明確化について記載してください。
大学院独自で教員の採用は行っていない。本学の教員が大学院で授業、学生指導を担当できるようになるためには、大学院担当教員審査基準を満たす必要がある。大学院担当教員資格審査委員会は年に2回実施している。また大学院担当教員の資格については、6年間と任期を定めており、5年経過時点で大学院担当教員資格審査委員会において継続審査を実施している。

4-2. FD (Faculty Development) 活動の実施状況について記載してください。
本学では、大学の全専任教員と全事務職員を対象としたFDとSDとして、年間10回「全学教職員会」を開催している。ここでは、学長の方針や各学部・学環、大学院研究科の方針等のほかに全学的に共有すべき情報や教育向上のための新たな教育手法の紹介、コンプライアンス研修やハラスメント研修など多方面のテーマを設定し八王子・蒲田両キャンパス合同で実施している。また、2024年度には、教員の教育、研究力の向上を目的として、片柳研究所が主催し、「英語論文執筆セミナー」や「科研費申請書面談添削」が実施された。

4-3. 教員の教育・研究活動の成果と評価について記載してください。
教員の教育・研究活動の成果については、1年に1回取りまとめられ、標準教員評価として評価されている。各教員の研究活動の成果については、情報公開のページにまとめられ、世間に公表するとともに、特徴的な各教員の教育・研究活動や指導している学生の受賞などについては、大学のHPに記事を掲載し、広く世間に成果を公表している。

自己評価	
ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した イ. 前年どおりである又は特に問題はない	イ

ウ. 改善・修正が必要な点がある。	
-------------------	--

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

5. 独自基準（学部の特徴）

学部が持つ独自の強みや個性、特色を確認します。

5-1. 学部が個性・特色として重視している領域について記載してください。
バイオ・情報メディア研究科コンピュータサイエンス専攻では、最先端の情報通信技術に関する教育・研究に注力している。特に AI、データサイエンス、サイバーセキュリティ、ヒューマンインタフェースなど急速に発展する分野に重点を置き、高度な技術者や研究者を養成している。また、バイオ・メディア・情報の融合領域における学際的研究を推進し、分野横断的な学修を重視している。さらに、産学官連携や地域社会との協働、国際共同研究を通じて、実践的な課題解決能力とグローバルな視野を兼ね備えた人材を育成している。 本専攻の特色として、早期修了制度を設け、1.5 年で修士号取得が可能であり、学生には外部発表を義務づけ、研究成果の社会発信力を強化している。実際 2024 年度では、大学院生が外部発表し、2 件の学生表彰を受賞した。また、中国人留学生をはじめ多様な国籍の学生が在籍し、異文化を取り入れた学修環境を提供するとともに、外国人にもわかりやすいプレゼンテーション能力を育成している。加えて、DX 推進やカーボンニュートラル、SDGs など社会的課題への対応を教育・研究に組み込み、持続可能な社会の構築に貢献している。

5-2. 他大学との違いを示す取り組みがあれば記載してください。
バイオ・情報メディア研究科コンピュータサイエンス専攻では、他大学にはない差別化要素として、IT コンサルティング、デジタルトラスト、サービスマネジメントなど、技術力とビジネススキルを融合した教育を提供し、社会実装力を兼ね備えた高度専門職業人の育成を目指している。これらの取り組みにより、他大学にはない国際性・実務直結型教育・早期修了制度を実現している。 大学全体の研究活性化を目的として片柳研究所では、Scopus 掲載論文を執筆した教員に対する「国際学術論文投稿助成制度」を実施している。

自己評価	
ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した	イ
イ. 前年どおりである又は特に問題はない	

ウ．改善・修正が必要な点がある。	
------------------	--

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

5-1・5-2.具体的な事例

1. CEATEC2024 出展・AI/DX 人材育成セミナー

- ・東京工科大学は、日本最大級のデジタルイノベーション総合展「CEATEC2024」に出展し、AI や DX に関する研究成果を発表。
- ・特設会場で NVIDIA と連携した AI/DX 人材育成セミナーを実施し、企業や地域関係者に向けて DX 推進の重要性と実践的スキルを紹介。
- ・詳細はこちら → [CEATEC2024 出展・セミナー実施報告](https://www.teu.ac.jp/ceatec2024/)[[teu.ac.jp](https://www.teu.ac.jp)]

2. 八王子大学 DX コンテストへの参加

- ・コンピュータサイエンス学部の学生チームが多数参加し、地域 DX 推進に向けたアイデアや技術提案を発表。
- ・地域企業や自治体と連携し、実社会の課題解決に直結する取り組みを実施。
- ・詳細はこちら → [八王子大学 DX コンテストにコンピュータサイエンス学部の学生チームが多数挑戦](https://www.teu.ac.jp/dx-contest/)[[teu.ac.jp](https://www.teu.ac.jp)]

3. 最新 AI 技術を活用したハンズオンイベント

- ・「生成 AI を使ってみよう！」と題したハンズオンイベントを開催し、学生に AI 技術を活用した実践的スキルを提供。
- ・地域 DX 人材育成の一環として、企業講師（日本マイクロソフト）を招き、先端技術の活用方法を指導。
- ・詳細はこちら → [最新 AI 技術を活用した学生向けハンズオンイベント](https://www.teu.ac.jp/hands-on-ai/)